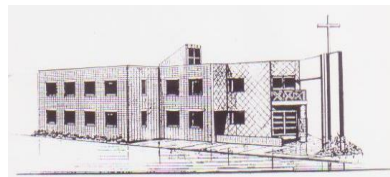


日本キリスト教会

札幌豊平教会だより

2020年8月16日 第142号



【巻頭言】 共同社会に生きる教会の責任 稲生 義裕

すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスを試そうとして言った。「先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか。」イエスが、『律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか』と言われると、彼は答えた。『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります。」イエスは言われた。「正しい答えだ。それを実行しなさい。そうすれば命が得られる。」(ルカ 10:25~28)

札幌豊平教会の対応は早かった。ニュース報道に「市中感染」の言葉が出るやいなや、2月23日主日礼拝に集う方々に手指消毒・マスク着用等の注意喚起を行い、翌3月1日主日より高齢の方・基礎疾患のある方・風邪症状のある方の自己判断による礼拝参加自粛と諸集会の休止を決めた。諸集会の休止には、教会の営みである毎金曜日昼及び月1回月曜日朝の食堂の閉鎖も含む。しかし食堂閉鎖が生活困窮の方々にもたらす深刻な影響は計り知れない。食堂空間の閉鎖は「居場所作り」を目指す教会にとっては痛手だが、食に事欠く方々との「食の分かち合い」は、感染リスクを極力排除しつつ継続の道を探るという方針を確認した。早速翌28日(月)の朝、食事を求めて来会する方々には、教会前駐車場ですぐ弁当を手渡しすることになった。

* *

5月末までの3ヶ月間、礼拝参加者は3分の1に減じたが、逆に仕事や住居を失った方々は増え、手渡し弁当の数は80食へと増加。食数の増加にも関わらず弁当作りボランティア間の感染リスクを減じる為に一人調理・一人パッキング体制へと移行。それを可能とする調理済み冷凍品の供給に与る幸いを得た。

そして4月下旬、遂に「会衆参加の礼拝休止」

という極めて重い判断を迫られた。長老は言葉少なに討議を重ね、この決断をした。翌週の週報には次の言葉が記された。「為政者による迫害の中でも、人々からの排斥の中でも、砲弾が飛び交う中でも、廃墟の中でも神を見上げて礼拝をささげてきた歴史の中に、私どもは身を置く。しかし私どもは、先の戦前・戦中において国家権力の礼拝への介入を拒むことが出来ずに、結果国家の戦争犯罪に手を貸すという、あってはならない過去を持つ。さて、この度の礼拝休止は権力の介入によるものではない。教会の主体的決断である。ではなぜ教会がこの極めて重い決断をしたのか。それは隣人に対する教会としての責任を思うからである」と。

教会の会合が、多くの方々を巻き込む感染拡大と医療崩壊を招き寄せることを、未然に防ぐ。それが隣人である地球市民に対する教会の責任であると認識したからにはほかならない。隣人に仕えるとは、自らを消去することを通して、神の現臨に仕え、神の栄光を顕すことである。礼拝もまた同様であり、両者は一つである。

* *

冒頭の聖句に続いて主イエスが語られた「良きサマリヤ人の譬え」(ルカ 10:30~37)には、追いはぎに襲われ半殺しにされた者を見るや、道の向こう側を通って行った祭司が登場する。彼は聖なる務めに召されて、その務めを全うするためには死体に触れることはできないとの掟に対する誠実を生きていた。神は神殿祭儀と掟の中にのみ生きておられるのだろうか。一方、半殺しにされた者を捨て身で救護したサマリヤ人の神は、物騒なエリコ街道を旅する彼の内にも生き、サマリヤ人を通して御自身を顕し給う。サマリヤ人は彼自身において神を生き、神を経験し、「命」に与っている。

主の御体なる教会は、礼典の中から頭なるキリストの御意志のままに、その翼を拡げていく。

札幌豊平教会における新型コロナウイルス感染症対策

長老 武蔵 学

新型コロナウイルス感染症(以下、コロナ感染症)が、アメリカ合州国、ブラジル、インドを初め世界の国々で猛威を振るい続けています。一度沈静化したかに見えた中国や韓国でも再燃しつつあります。日本でも第1波は乗り越えましたが、5月25日に緊急事態宣言が解除され、市民の往来が増加したことに伴い7月上旬から再度感染者数が増加しました。さらに、6月16日には8月からの開始が予定されていた「Go To Travel キャンペーン」が7月22日からの連休開始に前倒しされ、さらに都道府県を超えた市民の往来が増加して7月中旬以降過去最多の感染者数を更新する「第2波」が出現しています(2020年8月初旬)。

雪祭りへの中国等からの旅行者増加に伴いコロナ感染症が増加することを予想していた小会では、2月16日の礼拝からマスクとアルコール消毒用品を受付に備えて来会者にマスク着用と礼拝前後の手指の消毒を励行しましたが、2月23日の礼拝前に臨時小会を開催し、前日の道内感染者が9名と急増したため以下の事を決定しました。

- ①指のアルコール消毒とマスク着用、換気、ドアノブ等の消毒を継続する。
- ②3月1か月に関して、コロナ感染症により重篤化し易い後期高齢者及び持病を有する者、ならびに感冒用症状を有する者は、無理して礼拝に出席せずに自宅等で祈りにより礼拝に参加することとし、4月以降については、3月下旬の状況をみて判断することとした。祈り会等の集会も同様とすることとした。
- ③朝ごはん食堂、とよひら食堂については、原則的に3月は中止とするが、2月24日(月)の朝ごはん食堂及び2月27日(木)のとよひら食堂は利用者への連絡ができないことから風除室での弁当の手渡しとすることとした。なお、以後、路上生活者が食事を入手し難い状況となることが予想されるため、中止に代わる別の方法を模索していくこととした。
- ④教会外の主催者が会堂を借用して行うイベントについては、主催者の判断に委ねることとした。

一方、2月27日には大会議長より「新型コロナウイルス感染に関して」と題する緊急書簡が全教会・伝道所に向けて発せられましたが、推奨された防護対策は当教会のそれに合致していました。

3月8日の小会では3月末までであったコロナ感染症予防策を4月末まで延長することとし、食堂関係では、公共交通機関を利用しない少数のボランティアに限定して教会玄関先での弁当配布としました。4月12日のイースター礼拝については従来からの予防策を取りながら実施すること、教会のWifi環境が整ったことから4月5日の礼拝からライブ配信を行うことを第6回臨時小会で決定しました。

また、4月7日の政府の「緊急事態宣言」発出および4月16日の全国への拡大、5月31日までの延期決定及び札幌市の感染者動向を考慮し、4月26日～5月一杯は全会員が参加しての礼拝は休止しライブ配信することを決定しました。5月10日の定期小会では、どのような条件が整えば全員参加の礼拝を再開するかを協議し、小会独自の案を決めましたが、その後、公表された政府からの0.5人/10万人/週の基準や北海道の基準を併せて判断することとしました。その結果、6月7日から感染防止に留意しての礼拝を再開する事、聖餐式・諸集会は引き続き行わない事を決定しました。さらに感染者数が安定したことから6月21日の臨時小会において7月から感染対策を継続しつつ聖餐式、諸集会を再開することを決定しました。感染者が出ることなく礼拝や食堂が継続できていることに感謝すると共に、特に礼拝のライブ配信担当の秋葉長老、体温測定、換気、ドアノブの消毒等を率先された杉中長老、毎週の説教に加えて食堂運営を指導される稲生牧師に感謝します。小会は今後も毎週の感染動向に即応できる態勢を継続していきます。



2020 年度 札幌豊平教会定期総会報告

長老 武蔵 学

2020 年 2 月 2 日の礼拝後に定期総会が開催された。稲生牧師の議長の下、讃美歌 194 番斉唱、詩篇 19 編 2～5 節の朗読後に大和田眞理子長老の祈りで開会した。現住陪餐会員の 1/3 である 14 名以上、32 名（男；11 名、女；21 名。他に陪席 3 名）の出席があり定期総会は成立し、書記に長老武蔵学、補助書記に長老杉中一郎を選出した。

長老選挙は、今総会で任期満了となる 2 名（秋葉長老、大和田長老）を選出する。投票の結果（有効投票数 30 票、無効投票数 2 票）秋葉聡志兄 26 票、大和田眞理子姉 25 票で有効投票数の 3/2（20 票）以上を獲得して長老に選出された。任期は 2 年間。日曜学校校長には小会推薦の武蔵長老が承認・選出された。任期は 1 年間。

教情報告では、現住陪餐会員が 1 名増の 44 名、陪餐会員は 51 名で不変。2019 年度の会員異動では、受洗者 4 名（岩間和彦兄、大和田満兄、秋葉康子姉、河村露子姉）で、秋葉姉を除く 3 名は病床受洗であった。逝去者は岩間和彦兄、河村露子姉、子島仲子姉の 3 名。主日礼拝出席者の平均は 35 名で昨年度と同様であったが、2016 年度以前の 40 名台に比して減少していた。説教は牧師稲生義裕による『ヘブライ人への手紙』講解説教で、牧師出張の 3 主日の説教を大塚、秋葉、武蔵の各長老が各々担当した。日曜学校は出席者がなかったが、祈り会は昼・夜合わせて平均 7 名と善戦した。この他、毎主日礼拝後の「高校生以上の会」を武蔵長老が、「聖書を読み信仰を語る会」「キリスト教 Q&A」を随時、稲生牧師が担当した。第 1 主日の「聖書素読の会」では民数記と申命記を輪読した。



その後、各委員会、各会の報告があり、了承された。2020 年度方針については、2019 年度の方針「他者と共に、他者のために～多様な恵みのもとに～」と最終月曜日朝の「朝ごはん食堂」、毎金曜日昼の「とよひら食堂」、夏休みの「天使食堂」等の食堂の営みを通して、格差貧困問題、環境問題、食にまつわる問題等の社会問題と向き合うことを考慮し、小会は「他者と共に、他者のために～食でつながる心と命～」を提案した。ボランティアの確保、朝ごはん食堂の簡素化、とよひら食堂の利用者との関係性をどう築くか等の課題を念頭に置きつつ、これらの営みの継続深化を目指して小会提案の「他者と共に、他者のために～食でつながる心と命～」を方針とすることを決定した。2020 年度行事は前年度とほぼ同様とすることが承認された。

会計に関しては、2019 年度決算はマイナス 350,814 円の赤字決算となったが、これをナルド基金会計より補填して決算処理することに異論なく、2020 年度予算は収支 7,346,690 円、前年度比マイナス 187,201 円とすることが承認された。昨年の中会で当教会会計精査委員会が設置され、委員会報告が示されている。これを受けて小会では大会負担金の未達状態を解消できる見通しが立たないことから、他教会・伝道所との合同、伝道所への移行を検討していることが報告された。

総会記録確定は小会に一任することとし、熊谷トキ姉の閉会祈祷で 15：40 に閉会した。

逝去者記念礼拝と墓前祈祷会・埋骨式

杉中 一郎

6月21日の主日礼拝は、逝去者記念礼拝として捧げられました。

稲生義裕牧師の説教は「一つの命、命の広がり」と題し、聖書の「使徒言行録17:20～28」を説き明かされました。

礼拝終了後には簾舞霊丘公園の札幌東部四教会共同墓地において、墓前祈祷会・埋骨式が執り行われ、60名弱の兄弟姉妹が参列しました。コロナ禍の影響により三密を避けるため、例年のような札幌東部四教会合同での実施は見送られ、札幌豊平教会単独での実施となりました。

招きの言葉として「コヘレトの言葉12:5～

7」「ルカによる福音書24:1～6」「ヨハネによる福音書14:16～20」が読まれ、讃美歌488番（遙に仰ぎみる）を斉唱。朗読された聖書に添って「あなたがたはわたしを見る」と題し、稲生義裕牧師より説教がありました。

埋骨は、イースタリーコールの方々による讃美歌361番（主にありてぞ）が歌われるなか、故山田満兄、故岩間和彦兄、故本城和夫兄、故本城ハル子姉それぞれの御遺族の手によってなされました。

このあと全員で主の祈りを捧げ、讃美歌320番（主よ、みもとに）を斉唱し、祝祷をもって本年の墓前祈祷会・埋骨式が終えられました。



入会の喜びと感謝



2020 年 4 月 12 日入会

高地 節子

今年のイースター主日礼拝の日に、豊平教会に入会させていただきました。とてもとても大きな喜びです。その喜びは今も続いています。ありがとうございます。

47 年前網走カトリック教会にて受洗したものの、そこから信仰者として全く成長できず、教会から遠ざかり、ついには熱心党のシモンのように「キリスト教徒に仇なす者」になっていました。当然のように洪水の中に巻き込まれるような年月でした。でも神様は立ち帰る日を用意して下さいました。

豊平教会のことは、偶然インターネットで知ったのです。ですから恐る恐る訪れた私を、教会の中に迎え入れて下さり、祈って下さり、言葉と行いで聖書を教え導いて下さった稲生先生をはじめ教会の兄弟姉妹の皆様には、感謝の思いでいっぱいです。

教会の礼拝に与った時や高校生以上の集いで、聖書の御言葉やその解き明かしに、何度も心打たれ涙がとまりませんでした。あの時も、そしてこの時まで待っていて下さって、入会させて下さってありがとうございます。

『主よ、あなたは私を調べ、私を知っておられる……そこでも、あなたの手は私を導き、右の手は私を離さない』詩編 139、ちょっと遅れましたが、私もイエス様を生きる者の群れにつき従いついていきたいと思ひます。皆様、どうかよろしくお願ひいたします。

渡邊公吉さんを偲んで



1929 年 6 月 25 日誕生

1949 年 6 月 5 日受洗

2020 年 6 月 9 日逝去

吉田 道子

1929 年生まれの渡邊さんが大学入試を目指された時の日本は第二次大戦終結後の大混乱で、その上大変な食糧難でした。医学部も目指せるとの周囲の期待の中、彼自身の決断はこの時代を生抜く為には何よりも食の確保が大事と北大農学部をえらび、卒業後は研究発見の出来る農業試験所に勤務されました

職場では名前の一字の公を上下 2 分にしてハムちゃんとの愛称でお仲間達に親しまれて居られたとの事、当時同僚であった筒井正子姉から伺い温かなお人柄になんとびったりと思われて納得でした。

1994 年 10 月に、20 歳で受洗された小樽シオン教会から豊平教会に転入され、お仲間となられました。その折のご紹介で、還暦目前に調理師免許を取得の為に若者達に囲まれつつ学び正式免許を受け、病院の給食部のお仕事も担当されたと伺い、こだわりと追及に驚きと尊敬に満たされました。

その後、奥様を見送られてお独り暮らしとなられてから、牧師と幾度かお住居に伺いましたが、何も心配なくしっかり静かに過ごして、楽しく会話もはずみました。

後年、更なる高齢独居を心配されたご息女が、お住居の近くの施設にお迎えして孝養を尽くされましたが、バースデー目前の六月九日、僅かに足りない 91 歳の地上のご生涯を終えられました。

お遺族の皆様への上よりのお慰めをお祈りします。

神学校近況報告

関口 直文



3月豊平教会での最後の礼拝の翌日に東京へと私は飛んだ。東京での新しい生活に希望を抱いていた。しかし新型コロナウイルスが私の希望を打ち砕いた。東京に移り住んでまもなく緊急事態宣言が出された。これに伴い三鷹の街から光が消えた。三鷹の店という店はシャッターを下ろし、通りからは人影がなくなった。春の東京の空は全てのものから色を奪い、私は死の陰の谷に行くこととなった。

新型コロナウイルスの影響は神学校にも及んだ。神学校の入学式が何度も延期された。講義が始まらなかった。私は終日三鷹の街を当てもなくさまよい歩いた。それだけではない。この呪わしいウイルスは私の教会生活をも破壊しようとした。私の出席教会である荻窪北教会の小会が都内の感染状況を重く見て礼拝休止の判断を下したのだ。それから私は日曜日でも終日三鷹の街を当てもなくさまよい歩くようになった。

私の東京での歩みの全てが暗闇に包まれそうな時、私は一筋の光を見た。確かな光だった。光よりの光だった。私たちの主イエス・キリストである。ある日歩き疲れアパートに帰ってきた私はベッドにすぐに横になった。灯りを消す前いつものように御言葉を聴くべく聖書を開いた。一つの御言葉が私の両眼を通り私の心の奥深いところに達した。ヘブライ書の13章6-8節である。

だから、わたしたちは、はばからずに
次のように言うことができます。

「主はわたしの助け手。

わたしは恐れない。

人はわたしに何ができるだろう。」

あなたがたに神の言葉を語った指導者たちのことを、思い出さない。彼らの生涯の終わりをしっかりと見て、その信仰を見倣いなさい。イエス・キリストは、きのうも今日も、また永遠に変わることはない方です。

私は悟った。新型コロナウイルスが私の人生に何をもたらしたとしても、新型コロナウイルスがこの世界の何を変化させようとも、この世を造り、人を御自身にかたどって造られた神を変える力は有してはいないと。私たちの神は、暗闇に、絶望の中で、全てを飲み込もうとする混沌に「光あれ」と言う神である。私たちの神は、文字通り、暗闇に光を、絶望に希望を、混沌に秩序を与える神である。私は私を縛っていた新型コロナウイルスという名の鎖が打ち砕かれていくのを感じた。

それから程なくして、私の神にある東京生活が始まった。入学式は結局中止になったものの、講義が始まった。神に召された同じ志を持つ学友と机を並べる生活が始まった。荻窪北教会での礼拝もペンテコステから再開された。

新型コロナウイルスによって変わるものは確かにある。しかし私たちキリスト者は、絶対に揺らぐことのない岩なるキリストに堅く立っている。そしてイエス・キリストはきのうも今日も、また永遠に変わることはない方である。アーメン。



<豊平教会ニュース>

- ☆ 1月28日 棚橋よね子さん(求道者対馬あゆみさんのご母堂)が逝去されました。29日に棺前祈祷会、30日に葬儀が教会において執り行われました。
- ☆ 2月15日 豊平教会を会場にして開催された平和憲法を守る豊平区民の会主催の集会『“誰一人取り残さない”社会をめざして』において、豊平教会聖歌隊がミニコンサートを担当しました。
- ☆ 2月23日 『札幌豊平教会だより』第141号(A4版、4頁、カラー印刷)が発行されました。
- ☆ 2月27日 吉川義明さん、吉川望さんのご尊父蓼沼豊さんが逝去されました。所属する、聖公会札幌キリスト教会における葬儀は新型コロナウイルス禍のため執り行われませんでした。
- ☆ 4月12日 高地節子さんの網走カトリック教会からの入会式が、イースター主日礼拝において執り行われました。礼拝後のイースター祝会は中止されました。なお、この日の礼拝から出席者に対する新型コロナウイルス感染拡大防止のための諸対策が実施され、19日からは主日礼拝も時間を短縮して執り行われ、また、教会のフェイスブックを活用した礼拝のライブ配信が始まりました。
- ☆ 4月23日 関口直文さんが東京神学大学の編入学試験に合格し、神学部神学科3年に編入学するため札幌を離れました。
- ☆ 4月26日から5月31日 新型コロナウイルス感染拡大防止のため会衆参加の主日礼拝・諸集会などが休止されましたが、主日の礼拝は稲生義裕牧師による説教を中心に短縮した形で守りつつ、フェイスブックによってライブ配信され、その要旨は印刷されて教会員に配布されました。この休止によって5月10日の伝道開始114周年・教会建設60周年記念講演会が秋に延期されることになり、5月24日の札幌東部4教会長老相互問安の実施も見送りとなりました。また、3月から閉鎖され、教会の玄関先で弁当を提供してきた「とよひら食堂」は、4月から札幌テレビ塔下においても時間を定めて弁当の提供を始め、この態勢は継続中です。
- ☆ 5月23日 山田満さん(山田実・比奈子ご夫妻のご長男)が57歳で逝去されました。23日に棺前祈祷会、24日に葬儀が教会において執り行われました。
- ☆ 6月7日 主日礼拝が、さらに時間を短縮して再開されました。ただし6月中の聖餐式は行われず諸集会も休止されました。
- ☆ 6月9日 渡邊公吉さんが90歳で逝去されました。10日に棺前祈祷会、11日に葬儀が教会において執り行われました。



2020年札幌豊平教会委員会構成

I 小会・日曜学校・伝道部業務

- 1 小会
稲生義裕 (牧師)・武蔵学 (書記)
秋葉聡志 (会計)・大塚玲子・大和田真理子
杉中一郎・伊藤むつみ
- 2 日曜学校
武蔵学 (校長)・稲生義裕・小熊真喜子
- 3 伝道委員 秋葉聡志・全長老
- 7 衛生管理
(トイレ担当) 佐藤順子・伊藤むつみ
川名広美
(布巾・手拭担当) 井磧れい子・吉野千恵子
立上フミ
- 8 事務室・事務用品整理管理：吉田道子
- 9 福音時報・家庭礼拝暦取扱：大塚玲子
- 10 献金集計：熊谷トキ・川端幸子・吉田道子
藤井弥生

II 礼典委員会

- 1 聖晩餐の準備と片付け：川端幸子・杉中富江
井磧れい子・立上フミ・高地節子
- 2 週報作成印刷：稲生義裕
- 3 説教テープ録音・貸出管理：佐藤健一・山田實
- 4 当番表編成作成：
(礼拝当番) 金子信子・伊藤むつみ
(祈祷会) 杉中富江
委員会構成表作成：大塚玲子

III 総務委員会

- 1 週報・手紙発送・通信棚整理：杉中一郎
杉中富江・山田比奈子・金子信子
佐藤幸子・平田友美
川名広美 (宛名シール)
- 2 教会史資料の保存・収集：中川収
- 3 教会写真の撮影・編集・保存：中川収
春貴哲明
- 4 教会図書購入・管理・貸出：中川収
- 5 掲示板管理・資料保存管理：秋葉泰地
藤瀬正和
- 6 教会催事、案内：大塚玲子

IV 音楽委員会

大和田真理子・伊藤むつみ・川名祐紀子
ハートマン純子

V 問安委員会

大塚玲子・大和田真理子・田中節子
杉中富江・吉田道子・岩間英子

VI 社会問題委員会

稲生義裕・武蔵学・岩間英子・関口直文

VII 環境整備委員会

杉中一郎・佐藤健一
宮内和明・宮内紀恵子・吉川義明
平田寿・甲斐一夫・大和田望

VIII 広報委員会

(教会だより) 稲生義裕・秋葉聡志・大和田真理子
中川収・吉田道子・秋葉泰地 (入力)
川名広美
(HP管理) 稲生義裕・秋葉聡志・関口直文

IX 札幌東部4教会協議会

稲生義裕・武蔵学・杉中一郎

豊平教会だより 第142号

日本キリスト教会札幌豊平教会 教会だより編集委員会
札幌市豊平区豊平6条3丁目5番15号 TEL 011-811-6838